

## 時間が過ぎているのではない

人が生きて禅の教えに「舟に刻んで剣を尋ぬ」という言葉があります。

妄想や愚かさのたとえとして言われるもので、こういう意味です。

舟から水中に剣を落とした人が、あわてて舟のへりに傷をつけて印とし、「ここだ、ここに落ちたのだ」と、言ったとしたらどうでしょう。

それを聞いた人は笑うはずです。「バカなやつだ。舟が動いている

と知らずに、舟に印をつけて剣はここだと言っても、その剣はもう

ずっと後ろにいつているに決まっているではないか」と。いることも、舟が水上を動いているようなものです。

つまり、人自身が水の上をゆく舟です。自分がずっと同じところ変わらずにあるものと考えることを「常見」と言います。

いかなる存在も常に在ることはありません。それを無常といいます。刻々と過ぎつつあるのは、時間ではなく自分自身なのだと思わねばなりません。

水中に落とした剣は、まさに過ぎて行った自分です。

